

今週の為替相場見通し(2018年8月13日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.51 ~ 111.53	110.93	109.00 ~ 111.80
ユーロ	(ドル)		1.1388 ~ 1.1628	1.1408	1.1200 ~ 1.1600
(1ユーロ=)	(円)		126.02 ~ 129.45	126.52	124.00 ~ 128.00
英ポンド	(ドル)		1.2723 ~ 1.3005	1.2774	1.2600 ~ 1.2850
(1英ポンド=)	(円)	*	140.94 ~ 144.75	141.41	140.00 ~ 143.00
豪ドル	(ドル)		0.7280 ~ 0.7453	0.7293	0.7100 ~ 0.7500
(1豪ドル=)	(円)	*	80.62 ~ 82.80	80.95	79.00 ~ 83.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 森田 大貴

(1)今週の予想レンジ: 109.00 ~ 111.80 円

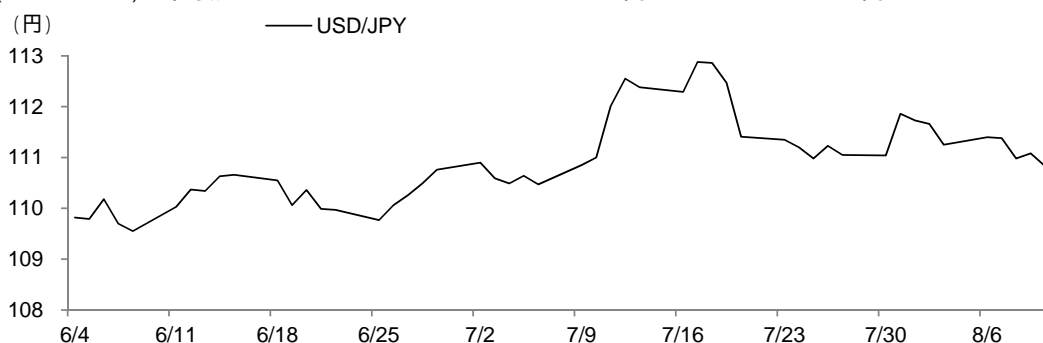
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は小幅なレンジ内で推移。週初6日に111円台前半でオープンしたドル/円は、フォックス英国国際貿易相が「英国のハードブレグジット(強硬離脱)の可能性が高まっている」と発言したことを受けて英ポンドが売られ、また独6月製造業受注指数が約一年ぶりの低水準となりユーロ売りが強まるなど対欧州通貨を中心にドルが買われる展開に週高値となる111.53円をつけた。しかし、米10年国債利回りが約2週間ぶりに2.93%を割り込んだことから111円台前半まで下落。7日は中国上海株をはじめアジア株が総じて堅調に推移する中でドル売りが強まり111円を下回る場面も見られたが、ユーロ/円が急伸するとドル/円は111円台半ばまで連れ高となった。8日は「中国が米国製品160億ドル規模に対し報復関税を8月23日に発動」との報を背景に110円台後半まで下落。9日は一時110.71円まで下落したが、トランプ米政権によるトルコやロシアへの制裁が嫌気される中で新興国通貨が軒並み下落したほか、対ユーロでのドル買いにサポートされ111円台前半まで反発。翌10日、米7月CPIコア指数が市場予想を上回ったことからドル/円は上昇する場面も見られたが、米国・トルコの更なる関係悪化が懸念され、リスクオフ地合いの中、週安値となる110.51円をつけた。その後は、トランプ米大統領の弁護士であるセクロー氏が「米国人牧師の拘束問題が解決に近づいている可能性がある」と発言したことから反発し、110.93円で越週した。

今週のドル/円相場は上値の重い展開を予想。先週は、株価が比較的落ち着いた値動きを見せる中でも、為替についてはリスクオフ的にドル買い、円買いが進み、クロス円が下落する展開となった。ドル/円については、対他通貨でのドル買い地合いとクロス円の売りに挟まれ、足元111円を挟んで小幅なレンジ推移となっている。然しながら、7月日銀金融政策決定会合を経て112円付近が重いままで、テクニカルにも一目均衡表の基準線や転換線といったポイントを割り込んで推移しており、上値の重さが意識される状況。海外勢も既に円高方向を見ており、現状レベルでの売り意欲が確認されている。今週は、夏休みシーズンが本格化し取引も細ると考えられるが、米中通商問題やトルコをはじめとする新興国懸念が燦る状況下、クロス円の上値が重い地合いも続いており、ドル/円も引き続き上値重く推移しよう。

(3)先週までの相場の推移

先週(8/6~8/10)の値動き: 安値 110.51 円 高値 111.53 円 終値 110.93 円



(資料)ブルームバーグ

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上